

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
1	53	原典資料	<p>ブッダの言葉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実にこの世においては、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みを捨ててこそ息む。これは永遠の真理である。 2. 生れによって賤しい人になるのではない。生れによってバラモンとなるのではない。行為によって賤しい人ともなり、行為によってバラモンともなる。 3. あたかも、母が己が独り子を命を賭けても護るように、そのように一切の生きとし生けるものどもに対しても、無量の(慈しみの)ところを起すべし。 <p>『スッタニパータ(諸経要集)』</p>	<p>ブッダの言葉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実にこの世においては、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みを捨ててこそ息む。これは永遠の真理である。 <p>『ダンマパダ(法句経)』</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 生れによって賤しい人になるのではない。生れによってバラモンとなるのではない。行為によって賤しい人ともなり、行為によってバラモンともなる。 3. あたかも、母が己が独り子を命を賭けても護るように、そのように一切の生きとし生けるものどもに対しても、無量の(慈しみの)ところを起すべし。 <p>『スッタニパータ(諸経要集)』</p>
2	57	図	<p>○ おもな仏教美術の遺跡</p>	<p>○ おもな仏教美術の遺跡</p>